



(六郷)

十二牲B遺跡は、秋田県内陸南東部の横手盆地東端に位置し、雄物川の支流である厨川左岸の沖積地上に立地する。標高は約五一m。南に隣接する独立丘陵（北西斜面）には十二牲A窯跡があり、未発掘ながら須恵器窯跡二基が確認されている。さらに本遺跡の東約二kmには後三年合戦（一〇八三〜八七）の主戦場とされる金沢柵跡が存在する。調査は、圃場整備事業に

## 秋田・十二牲B遺跡

じゅうにしよ

- 1 所在地 秋田県横手市金沢中野字十二牲
- 2 調査期間 一九九八年（平10）五月〜一〇月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 小林芳行
- 5 遺跡の種類 土器生産遺跡
- 6 遺跡の年代 九世紀中〜後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

十二牲B遺跡は、秋田県内陸南東部の横手盆地東端に位置し、雄物川の支流である厨川左岸の沖積地上に立地する。標高は約五一m。南に隣接する独立丘陵（北西斜面）には十二牲A窯跡があり、未発掘ながら須恵器窯跡二基が確認されている。さらに本遺跡の東約二kmには後三年合戦（一〇八三〜八七）の主戦場とされる金沢柵跡が存在する。調査は、圃場整備事業に

伴うもので、調査面積は七五八〇㎡。調査の結果、古代の土師器焼成遺構一基、掘立柱建物一棟、堅穴状遺構、土坑、溝跡、柱列などを検出した。土坑のうちの一基の、ロクロ軸受とみられるピットは、隣接する土師器焼成遺構・建物・柱列と併存したと考えられ、建物は土師器あるいは十二牲Aの須恵器窯に関連する工房跡と推定される。また出土遺物には、土師器・須恵器・木製品がある。

木簡は二点とも遺物包含層出土であり、共伴する文字資料には、「小」や「寺」と墨書された須恵器杯、「真公」と筆書された須恵器壺などがある。

### 8 木簡の积文・内容

(1) 「。□□山□□一斗五升」 225×19×8 011

(2) 「大」 131×38×6 011

(1)は上端部に穿孔あり、表面は削りのち墨書、裏面は未加工である。(2)は材の上部に小さく一文字だけ墨書している。

木簡の积読にあたり、平川南氏にご教示をいただいた。

### 9 関係文献

秋田県教育委員会『十二牲B遺跡』（二〇〇〇年）

（高橋 学〈秋田県弘田柵跡調査事務所〉）



(1)